

1 題材名 箏の奏法や音色を生かして、「さくらさくら」の前奏をつくろう

2 題材の目標

- (1) 音のつながり方の特徴を理解し、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。(知識及び技能)
- (2) 箏の音色や平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、表現方法を工夫し、どのように音楽をつくるか思いや意図をもつ。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 箏の音色や奏法に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、伝統音楽の音色に親しむ。(学びに向かう力・人間性)

3 指導事項との関連

第1学年 A表現(3)ア, イ(ア), ウ 共通事項(1)ア

本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：  
：音色、旋律

3 題材の評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
知①：音のつながり方の特徴を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組み合わせ方を理解している。 技②：創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。	思①：音色や旋律などの要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態①：箏の音色や奏法、平調子の旋律に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説音楽編 A表現(3)ア, イ(ア), ウを受けて設定した。前題材で平調子の音階の特徴や箏の様々な奏法を習得した生徒は、それらを生かして箏の奏法を活用しながら創作をする。「さくらさくら」の前奏をつくることを通して、自己の思いや意図を豊かに表現するために既習した奏法を加えたり、音色・旋律などの音楽の諸要素を考えながら、前奏をつくる楽しさや喜びを感じられるように活動に取り組ませたい。

(2) 生徒観

<b>【実態調査】</b> 1 あなたは日本の音楽に興味がありますか？ ① ある… 人 ② 少しある… 人 ③ あまりない… 人 ④ ない… 人 2 あなたが知っている和楽器は何ですか。(複数回答可) ① 尺八… 人 ② 箏… 人 ③ 三味線… 人 ④ 篠笛… 人 3 あなたは創作の授業は好きですか？ ① 好き… 人 ② 少し好き… 人 ③ あまり好きでない… 人 ④ 好きでない… 人 4 あなたは創作に対してどのようなイメージを持っていますか。 ① 難しい… 人 ② 作り方が分からない… 人 ③ 発想力が必要… 人	令和2年*月*日実施 人
---	--------------

本学級の生徒たちは1年生らしい素直さがあり、明るく意欲的である。また、音楽に対する好奇心や探究心が高い。歌唱はもちろん、鑑賞や器楽題材においても多様な音楽に興味をもっている。箏の基本奏法の授業では、柱を立てて調弦することや角爪を使って弦を弾いて演奏する奏法に関心をもって話を聞いたり、友人と声をかけ合ったり、試行錯誤しながら演奏活動に取り組む生徒が多くみられた。

実態調査から、日本音楽に対して興味をもつ生徒が多いこと、和楽器の認知度としては箏が1番多く認知されていること、箏以外の和楽器に関しても認知している生徒が多くいることが分かった。一方で、創作に対して「難しい」「創り方が分からない」「発想力が必要」などの理由から苦手意識をもつ生徒が多いことが分かった。また、普段の授業の様子から、楽譜に記譜するこ

とが苦手な生徒が多いという実態もある。

本題材では、基礎的な奏法を習得した上で、箏の音色や平調子による音階などを生かしながら、「さくらさくら」の前奏を創作する。前奏を創る際、いくつかのルールを提示したり、模範楽譜の提示や各グループの途中経過の発表を聴き、ゴールのイメージをもたせたりすることで、創作に対する抵抗感をなくしたい。また、少人数のグループで意見を交わし合い、協働的に試行錯誤する活動を通して、より豊かな創作表現ができるようにしていきたい。

(3) 指導観

本題材では、「さくらさくらのオリジナルの前奏」の創作活動にグループで取り組む。グループ創作活動において、前奏のイメージを言葉で自由に話し合ったり、実際に友人同士で話し合いながら奏法を試したりすることによって、「こんな表現方法もあるのか」というようなことに気づき、創作への手立てとしたい。自由前奏の構成を工夫することで、音色、旋律などの音楽的要素を知覚し、それらの働きによって生まれる曲のイメージや雰囲気などを感受できるようにしていく。「この奏法を使って、こんな雰囲気を表現したい」「こんな旋律をつくって、この表現を演奏で表したい」など、どのように前奏を作るかについて思いや意図をもって創作できるように指導していきたい。

5 題材の指導計画（4時間扱い）◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1	<p>箏の創作表現を豊かにするためにどのような奏法を取り入れればよいのだろう</p> <p>1 「さくらさくら」を練習する。 ・小グループで活動に取り組む。</p> <p>2 色々な奏法（かき爪・合わせ爪・流し爪・裏連・押し手・後押し・突き手）を練習する。</p> <p>3 色々な奏法が、演奏表現にどのような効果をもたらすのか（情景やイメージなど）ワークシートに記入する。</p> <p>箏の創作において、色々な奏法を取り入れる事によって、表現豊かな演奏になる。</p>	○		○		<p>知①：創作表現に必要な箏の奏法や音の組み合わせ方を理解できるようにする。奏法を理解するのが難しい生徒には、どのような奏法を使用するのか聞き、奏法の例を範奏する 【観察】</p> <p>思①：いろいろな奏法の生み出す箏の音色や雰囲気を感じ取り、どのように演奏するか思いや意図をもてるようにする。思いや意図をもつのが難しい生徒には、どのような演奏効果があるのか聞き、記述の例を助言する 【ワークシート・観察】</p>
	2	<p>2小節の旋律を創作してみよう。</p> <p>1 前時で既習した色々な奏法をグループで練習する。 ・1人1人が奏法を演奏できるように練習する。</p> <p>2 2小節の旋律をつくる。 ・リズム譜や速度変化、音のつながり方の例を参考に、一人一人が2小節の旋律をつくる。</p> <p>2小節の旋律を創作してみて、音色や奏法を工夫することが必要であることが分かった。</p>	◎	○			<p>技①：2小節の創作を創る際の条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けられるようにする。技能が身に付いていない生徒には、演奏方法の助言をする 【観察】</p> <p>知①：音のつながり方の特徴を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組み合わせ方を理解している。 【ワークシート・観察】</p>

2	3 本時	<p>1. 前時の学習を振り返る。 ・全員で「さくらさくら」を演奏し、基本的な奏法や楽譜の読み方を確認する。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div data-bbox="284 367 678 439" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>「さくらさくら」のオリジナル前奏をつくろう。</p> </div> <p>3 班で「さくらさくら」の前奏をつくる。 ・前奏を創作する際のルールを提示する。</p> <p>4 各班の演奏を聴く。 ・各班で創作した前奏の発表を聴き、各班の創作のイメージを全体で共有する。</p> <p>5 本時のまとめ</p> <div data-bbox="284 792 678 898" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>箏の音色や構成を考えて、表現豊かな旋律をつくることのできた。</p> </div> <p>6 本時の学習内容を振り返る。 ・ワークシートに学習したことを振り返る。</p>			<p>○ 態①：箏の音色や奏法、平調子の旋律をつくる活動に困り感をもっている生徒には、手立てを提示したり試奏を促したりして、活動意欲をもてるようにする。 【観察】</p> <p>◎ 思①：音色や旋律などの要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 【ワークシート】</p>
	4	<div data-bbox="284 1084 678 1173" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>前奏を完成させ、発表しよう。</p> </div> <p>1 前回の授業を振り返り、グループで手直しする。</p> <p>2 「前奏」と「さくらさくら」を繋げた演奏を各班で発表する。</p> <p>3 活動を振り返り、学んだことや感想を交流する。</p> <p>4 本題材の振り返りをする。</p>			<p>◎ 技②：創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。</p> <p>◎ 態①：箏の音色や奏法、平調子の旋律に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。 【ワークシート・観察】</p>